

東京藝術大学美術学部 | 彫刻科

DEPARTMENT OF SCULPTURE, TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS

2023



東京藝術大学

SCULPTURE



はじめに

INTRODUCTION

130年以上前、東京美術学校が設置された時から、この場所ではひたすら「彫刻とは何か？」を日々問い続けてきました。変化し続ける社会情勢や地球環境に翻弄されながら、私たちの表現が変わらず導かれているのはこの問いとの接続です。原始から現代までの射程で彫刻を考察しながら、社会と彫刻を結び、伝統を継承し、革新を生み出す存在の出現を待っています。果たして彫刻という芸術に携わることが、私たちの未来や社会にとって有効であるのか、これから彫刻表現の可能性を一緒に探求しましょう。

沿革

OVERVIEW

彫刻科の歴史は、1887(明治20)年、専修科に彫刻科(木彫)が置かれたことに始まります。その後、1899(明治32)年に塑造科が増設され、1949(昭和24)年、学制改革により東京藝術大学となると改めて彫刻科として再出発しました。

現在の上野校地の彫刻棟は1971(昭和46)年に施工され、1977(昭和52)年には博士後期課程を開設。現在、大学院生の一部は取手校地にて制作活動を展開しています。

彫刻科では、幅広い造形の研究に重点をおき、過去の美術の歴史や日本美術の伝統を踏まえながら世界に視野を広げ将来の美術を展望できるような豊かな感性を持つ人材の養成が重要であると考えています。また、将来作家として独創性あふれる自由な創作活動が行え、美術にかかわる諸分野での指導的役割が果たせるような人材の養成に努めています。



アドミッションポリシー

ADMISSION POLICY

〈学部〉現代の新しい感性と彫刻の創造に資する多様な能力の人材確保のため、入学者選抜方針として造形力、構成力、表現力など美術全般の基礎能力、及び彫刻表現能力の考査を行い、学力試験の結果も含め幅広く総合的に判断し、感性豊かな人材を求めています。

〈大学院〉創造、表現、研究能力を養い、さらには自立して創作、研究活動を行うに必要な能力を備えた彫刻家、研究者の育成を目指しています。学部段階で修得した基礎能力や技術を基に、より専門的な彫刻表現の追求を志す人材を求めています。

〈国際交流〉国際交流協定校を中心にアジア諸国、西欧諸国との交流を積極的に実施しています。学生の海外留学に対して支援を行うと共に、毎年数名の留学生、研究員を受け入れています。

カリキュラムポリシー

CURRICULUM POLICY

〈学部〉基礎的な造形技術を習得し発展させながら、既成の領域にとらわれることなく、それぞれの学生の資質を生かす創作研究を行います。古美術研修や彫刻論などの講義を通し、豊かな教養を身につけ、現代における彫刻のありかたを探求します。最終学年には彫刻作品を制作し、卒業制作展で公開します。

〈修士〉彫刻表現を通して、広く社会に貢献しようとする高い志を持つ人材を育成します。学部で習得した基礎能力や技術を基に、広い視野から、より積極的、専門的な彫刻の表現、研究を行います。最終学年の修了制作展で成果を公開します。

〈博士〉修士学位取得者がさらに専門性の高い研究を行います。制作、研究、また学内外における発表や地域と連携したプロジェクト等、実践的な研究活動をもとに、彫刻作品、論文を作成します。最終学年に博士審査展にて研究成果を発表します。

指導教員一覧

STAFF

教授・准教授	大竹利絵子 / 林武史 / 大巻伸嗣 / 小谷元彦 原 真一 / 西尾康之 / 森 淳一
客員教授	青木野枝
テクニカルインストラクター	石井琢郎 / 森 靖 / 浅野井春奈 井田大介 / 井原宏蔵
助教	稲垣 慎
教育研究助手	柿坪満実子 / 大森記詩 / 秋吉 怜 / 佐宗乃梨子 若林祐希 / 大野 力 / 轟木麻左臣 / 林 岳

1・2年次

CURRICULUM
YEAR 1 & 2

1、2年次では、基礎過程として塑造をはじめ、木・石・テラコッタ・金属と、彫刻において世界的に広く使われてきた素材の扱い方と基礎的な造形法を学びます。2年次後期では自ら素材を選択し、発展させた作品を制作します。



A	A	A
B		C
B	B	B

A. 木彫実習
B. 石彫実習
C. 金属実習

C. 金属実習
D. テラコッタ実習
E. 塑造実習

C		D
C	D	D
E	E	E

カリキュラム

3年次

CURRICULUM
YEAR 3

3年次前期は、彫刻表現のコンセプトを学んだり、空間への意識を高めたり、表現の多様性を学びます。後期からは3つの講座と各素材及び専門領域に分かれ、指導教員の元に研究を深めます。また、古美術研究旅行を通して日本彫刻の歴史を体験します。



A	B
A	A B
A	C C

- A. 概念彫刻Ⅰーレディメイドー
- B. 概念彫刻Ⅱーアクションー
- C. 概念彫刻Ⅲーインスタレーションー

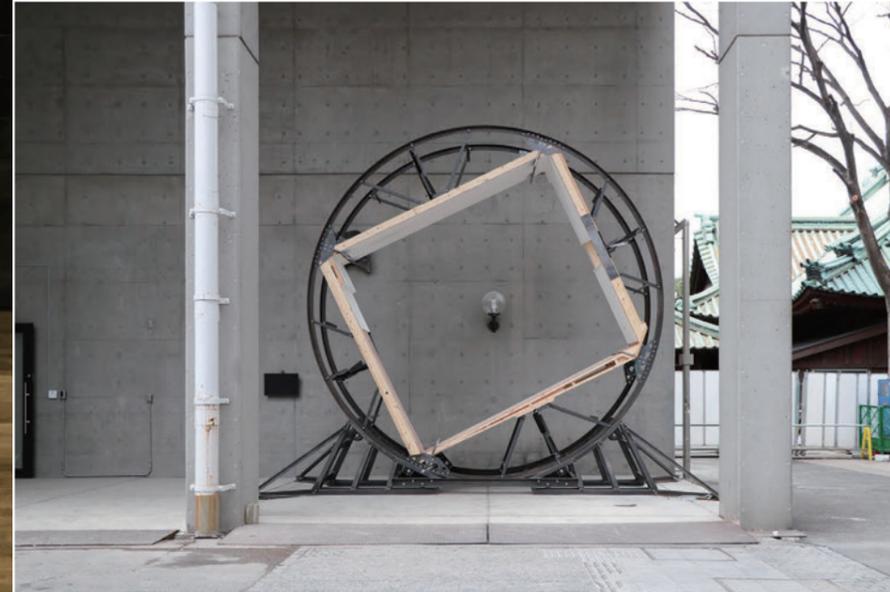
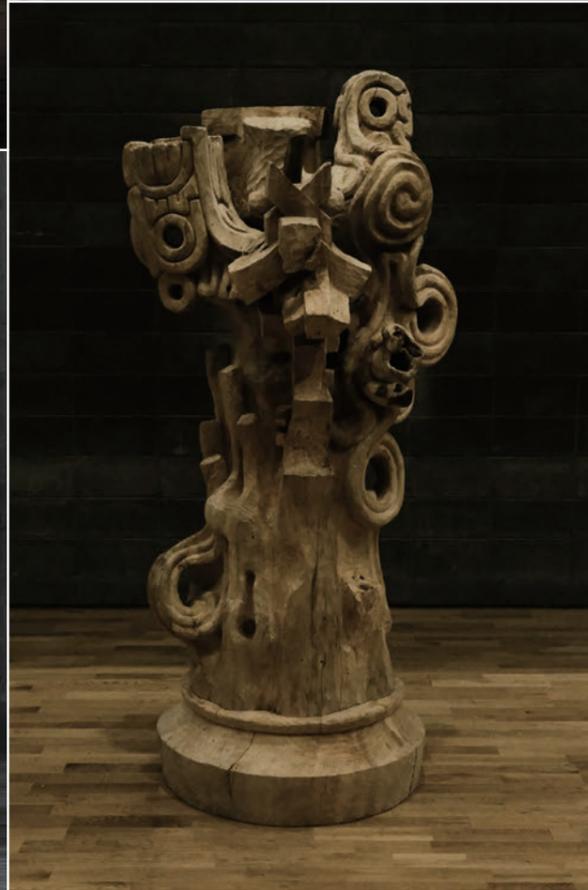
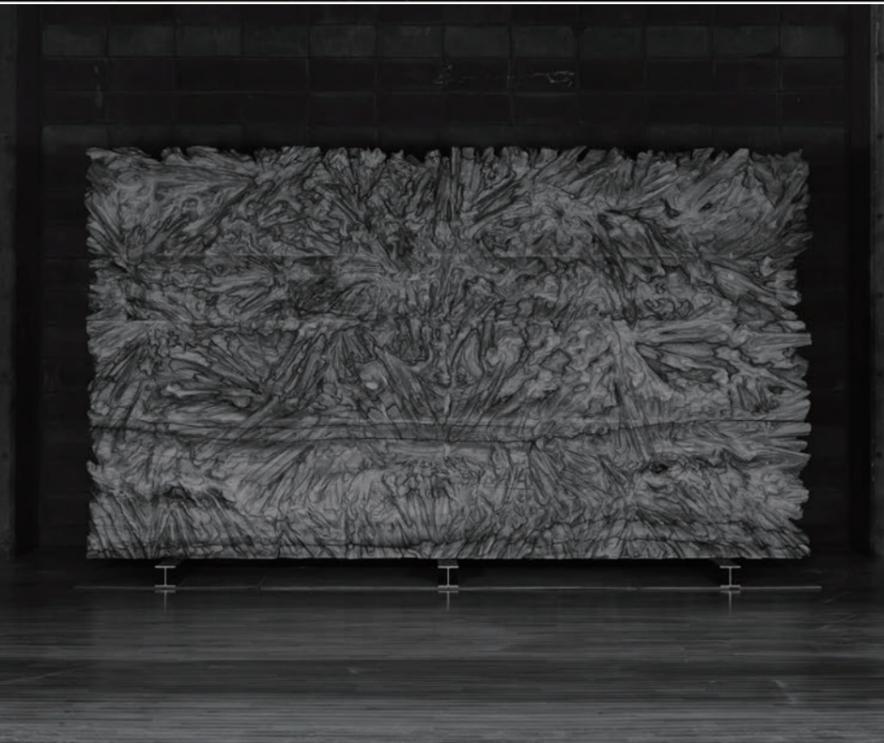
- A. 石彫制作風景
- B. 金属制作風景
- C. 木彫制作風景
- D. 塑造制作風景

A	A	A
B	D	
C	C	D

4年次

CURRICULUM
YEAR 4

4年次ではそれまで学んできた集大成として、学生が主体的にテーマを見つけ卒業制作に取り組み、一般公開となる卒業制作展へ臨みます。



A	B
C	D

- A. 守尾美優《decipher》素材:カネライトフォーム、磁器
- B. 伊藤珠生《愛し、愛される》素材:パラフィン・テラコッタ
- C. 菊地寅祐《BUG》素材:楠木、鉄
- D. 日向悠《流転》素材:銀杏

- E. ふくいつかさ《未知のひと》素材:樟
- F. 廣瀬鞠子《夜の海》素材:スタイロフォーム、モール
- G. 高橋 稜《3.04》素材:鉄、木
- H. 福岡里采三《わたし見た》素材:大理石

E	F
G	H

修士課程

CURRICULUM
POSTGRADUATE

大学院修士課程では、より集中して専門的な創作研究をすることができます。
修了制作展では大学美術館・彫刻棟を会場として、より専門性の高い作品発表を行います。



A	B
C	D

- A. 柿坪満実子《Remnants》素材:テラコッタ、綿、布、糸
- B. 中田愛美里《good night sweet prince》素材:陶、映像
- C. 水巻 映《天然色の記憶》素材:石材(トラバーチン、アラバスタ、大理石、小松石)
- D. 尹 菀《Rehearsals-Apparatus Series》素材:ミクストメディア

E	F
G	H

- E. 黒瀬舞衣《わたしには、わたしがいる》素材:樟
- F. 伊勢崎寛太郎《土の中から〜窯と山〜》素材:岡山備前の土、石、鉄、真鍮
- G. 高見真由《しっぽ取り》素材:ジェスモナイト、紙粘土、石粉粘土、樹脂粘土、木、セメント、鉄、塩ビパイプ、銅、石、石膏
- H. 後閑悠太郎《the chosen one》素材:大理石

彫刻科の設備

FACILITIES
DEPARTMENT OF
SCULPTURE

彫刻科には伝統的に扱われてきた素材を専門的に扱うための研究室と設備があり、各研究室教員の指導のもと、学生が自由に、かつ主体的に作品制作に臨むことができます。また、取手校地では、主に大学院生以上の学生が制作し、より高度で専門的な加工を可能とする共通工房を使用することができます。

石彫
STONE



1. 石彫実習室 2. フォークリフト 3. 竈(ふいご)

木彫
WOOD



1. 木彫実習室 2. バンドソー、自動カンナ盤ほか 3. 大鋸

金属
METAL



1. シャーリング 2. フライス盤 3. 金属実習室

塑造
CLAY



1. 窯 2. ポリ取り、塗装室 3. 3階アトリエ

取手校地
TORIDE



1. 取手石材工房 2. 石材切断用丸ノコ 3. 取手共通工房外観

その他の彫刻科による活動

1979

彫刻論

EXTRACURRICULAR
ACTIVITIES:
ON SCULPTURE

彫刻科では、2・3年生を主な対象とする「彫刻論」という授業を開設しています。この授業では彫刻科教員だけでなく、現在活躍されている様々な作家や批評家、ギャラリスト、キュレーターなどを学外から招聘し、時にはゲスト講師と学生が意見を交わしながらのレクチャーを行うことで、彫刻や美術への視野をより広く、深くすることができます。

彫刻論 | 招待講師一覧

1979 佐藤忠良

本間紀男

井上武吉

建畠覚造

土谷 武

1980 佐藤忠良

向井良吉

建畠覚造

江口 週

加藤昭男

1981 湯原和夫

福田繁雄

小田 襄

桑原住雄

1982 大平隆洋

矢内原伊作

篠田守男

掛井五郎

矢幡謙一郎

1983 三木多聞

若林 奮

木村賢太郎

柳原義達

速水史朗

1984 荒木高子

川下成海

堀口泰造

鈴木 実

1985 伊藤茂之

菅原二郎

小清水 漸

長谷川 栄

1986 福田徳樹

堀内正和

菊畑茂久馬

1987 大木達美

戸谷成雄

菅木志雄

1988 樋口正一郎

川島 清

舟越 桂

橋本裕臣

1989 中瀬廉志

藤田昭子

酒井忠康

1990 富松孝郁

宮脇愛子

石井厚生

1991 佐藤忠良

河口龍夫

飯田善国

岡本敦生

たにあらた

1992 村岡三郎

杉山惣二

柳 幸典

前川義春

高島直之

1993 黒川 員

建畠 哲

池内 務

1994 小畠廣士

萬木康博

田中信太郎

川俣 正

河口龍夫

戸津圭之介

1995 吾妻兼治郎

伊藤 誠

保田春彦

多和圭三

関根伸夫

1996 高岡典男

蔡 國強

三輪龍作

舟越 桂

本江邦夫

1997 川越 悟

千葉成夫

柳 建司

伊東 傀

安藤栄作

前野いわお

一色邦彦

1998 島田勝吾

1998 鷹見明彦

倉林 靖

黒川弘毅

1999 小泉晋也

田窪恭治

須田悦弘

村上 隆

上遠野敏

六角鬼丈

2000 松田誠一郎

吾妻兼治郎

2001 長谷京治

千田敬一

奈良美智

南條史生

遠藤利克

池田宗弘

2002 中村真木

袴田京太郎

石松豊秋

是枝 開

水上嘉久

保田井智之

2003 秋山七穂子

西 雅秋

渡辺英司

小谷元彦

津田亜紀子

西尾康之

市川武史

2004 小林泰彦

水沢 勉

村井進吾

大巻伸嗣

ヤノベケンジ

長谷京治

2005 井上雅之

小杉拓也

三輪三千代

チャールズ ウォーゼン

谷川 渥

中村哲也

2006 山本和弘

2006 田中三蔵

椿 昇

北澤憲昭

古郡 弘

前田哲明

2007 原口典之

森 淳一

棚田康司

小泉俊己

保井智貴

三沢厚彦

2008 土屋仁応

三田晴夫

北川宏人

藤井 匡

金井 直

名和晃平

2009 佐藤好彦

金氏徹平

富井大裕

城戸孝充

南嵩 宏

河口龍夫

2010 廣瀬敏史

天野一夫

石川健次

鴻池朋子

岩崎貴宏

高畑一彰

2011 樋口明宏

逢坂恵理子

2012 東芋

李 美那

棚田康司

大竹利絵子

2013 丸山富之

佐藤 忠

松井紫朗

拝戸雅彦

2014 中島史英

中野仁詞

鈴木友晶

2015 瀧 徹

2015 田中 毅

出原 均

2016 フロリアン クラール

池島康輔

伊東敏光

西野康造

2017 安藤栄作

市川 平

手塚愛子

中嶋大道

2018 市原研太郎

岡部あおみ

田中圭介

青野セクウォイア

2019 森北 伸

菅原一剛

飯田竜太

西川勝人

2020 七瀬綾乃

森 靖

椿 昇

小田原のどか

2021 二藤健人

小畑多丘

長谷川さち

鷺田めるろ

高見直宏

2022 和田礼治郎

松本 涼

竹内孝和

加藤 泉

特別講義 | 招待講師一覧

1986 斎藤泰嘉

ミッシェル ムラー

1987 安斎重男

フィリップ キング

1995 アンソニー カロ

2001 A. ゴームリー

2006 ミハ ウルマン

2015 ジュゼッペ ベノーネ

2019 塩田千春

※年数は年度表記です

その他の彫刻科による活動

1997

企画展示

EXTRACURRICULAR ACTIVITIES: EXHIBITIONS

彫刻科や研究室の企画する展覧会やアートプロジェクトも行われてきました。近年では、大学院生が主体となって企画するものもあり、より社会と接続し制作・研究を深めることができる機会となっています。企画展は1997年より東京藝術大学大学美術館陳列館にて、彫刻科が企画している彫刻展です。彫刻科教員・スタッフ他、学外の招待作家も出品します。

企画展示 | 展示概要一覧

第1回	空間の変容 —彫刻のポテンシャル—
会期	1997年11月10日(月)–11月28日(金)
企画	林 武史
出展作家	小谷元彦 / 棚田康司 / 虎尾 裕 / 林 武史 / 深井 隆 / 森 淳一
第2回	彫刻 —具象表現の解体と構築—
会期	1999年10月21日(木)–11月10日(日)
企画	北郷 悟
出展作家	磯崎有輔 / 大巻伸嗣 / 北郷 悟 / 黒川弘毅 / 棚田康司 / 津田亜紀子 / 鳥原正敏 / 藤田隆康 / 舟越 桂 / 三沢厚彦
第3回	垂直の時間 彫刻 —過去・現在・未来—
会期	2001年10月11日(木)–10月28日(日)
企画	深井 隆
出展作家	磯崎有輔 / 岡田晃典 / 清水 淳 / 須田悦弘 / 澄川喜一 / 高島啓竹内紋子 / 奈良美智 / 深井 隆 / 三沢厚彦 / 米林雄一
第4回	彫刻の身体
会期	2003年7月1日(火)–7月21日(月・祝)
企画	林 武史
出展作家	林 武史 / 河合勇作 / 棚田康司 / 森 淳一 / 原 真一 / 市川武史 / 渡辺英司 + 高木 哲
第5回	スキノデリック —彫刻の表層—
会期	2006年1月6日(金)–1月22日(日)
企画	北郷 悟
出展作家	伊藤 誠 / 奥田真澄 / 北郷 悟 / 清水 淳 / 高見直宏 / 塚本悦雄 / 中村哲也 / 藤原彰人 / 吉賀 伸 / 古川 聖
第6回	物語の彫刻
会期	2007年11月16日(金)–12月2日(日)
企画	深井 隆
出展作家	一井弘和 / 大竹利絵子 / 小谷元彦 / 小俣英彦 / 小泉俊己 / 清水 淳 / 滝上 優 / 竹内智美 / 田中圭介 / 棚田康司 / 津田亜紀子 / 原 真一 / 深井 隆
第7回	彫刻 —労働と不意打ち—
会期	2009年8月8日(土)–8月23日(日)
企画	原 真一
出展作家	大竹利絵子 / 小俣英彦 / 今野健太 / 下川慎六 / 西尾康之 / 原 真一 / 深谷直之 / 森 靖
特別企画	彫刻の時間 —継承と展開—
会期	2011年10月7日(金)–11月6日(日)
企画	深井 隆
出展作家	〈近代以前〉快慶 / 肥後别当定慶 / 円空 / 正直 / 舟月 / 森川杜園 〈近代〉旭 玉山 / 高村光雲 / 竹内久一 / 山田鬼斎 / 高村光太郎 / 荻原碌山 / 朝倉文夫 / 石川光明 / 中原悌二郎 / 佐藤朝山 / 石井鶴三 / 橋本平八 / 平櫛田中 〈現代〉澄川喜一 / 手塚登久夫 / 山本正道 / 米林雄一 / 木戸 修 / 深井 隆 / 北郷 悟 / 林 武史 / 原 真一 / 森 淳一 / 大巻伸嗣 / 増井岳人

第8回	物質と彫刻 —近代のアポリアと形見なるもの—
会期	2013年4月2日(火)–4月21日(日)
企画	林 武史
出展作家	角田 優 / 佐々木速人 / 名倉達了 / 名和晃平 / 袴田京太郎 / 林 武史 / 原口典之 / 深井 隆 / Mrs. Yuki / 宮原嵩広 / 森 靖

第9回	彫刻 —気概と意外—
会期	2016年9月28日(水)–10月10日(月・祝)
企画	原 真一
出展作家	池島康輔 / 井田大介 / 伊東敏光 / 井原宏路 / 大竹利絵子 / 今野健太 / 高見直宏 / 原 真一

第10回	時間 / 彫刻 —時をかけるかたち—
会期	2019年5月20日(月)–6月2日(日)
企画	林 武史
出展作家	大巻伸嗣 / 大森記詩 / 川島大幸 / 北山翔一 / 小塚照己 / 篠田太郎 / 鈴木弦人 / 富井大裕 / 林 武史

第11回	PUBLIC DEVICE —彫刻の象徴性と恒久性—
会期	2020年12月11日(金)–12月25日(金)
企画	小谷元彦 / 森 淳一
キュレーター	小谷元彦
共同キュレーター	小田原のどか
展覧会サポート	松下徹 (サイドコア)
出展作家	会田 誠 / 青木野枝 / 井田大介 / 大森記詩 / 小谷元彦 / 小田原のどか / 笠原恵実子 / カタルシスの岸辺 / サイドコア / 島田清夏 / 高嶺 格 / 椿 昇 / 戸谷成雄 / 豊嶋康子 / 西野 達 / 林 千歩 / 森 淳一 / 菊池一雄 / 北村西望 / 本郷 新



東京藝術大学大学美術館陳列館

1 増田充高さん

彫刻科 学部4年生 (2023年現在)



入学動機

僕は幼い頃、ずっと粘土で1人遊びをする男の子でした。小学生の時から授業中にずっと絵を描いていた、粘土をこねてはものづくりをして遊んでいました。

高校は芸術高校に進学して、高校2年生までは油画を専攻していましたが、平面作品



《have a good day》素材: 樟

を制作する際に色彩を扱うことが難しく感じて、美術予備校で水粘土に触れた事をきっかけに高校3年生からは高校、予備校共に彫刻科に転専攻しました。

その後は東京藝術大学を志す友達たちと、憧れや期待に胸を膨らませて二浪を経て2020年に入学しました。入学1年目でコロナウイルスの流行によって本来のカリキュラムが大きく変わった為に、僕達の世代はなかなかイレギュラーな存在かと思いますが今振り返れば当時、みんなわからない事だらけな状態で教授の先生方や教職員の方々は親身に対応してくださっていたと思います。

東京藝術大学では1年生、2年生に裸婦塑像に加えていわゆる四大素材である石、木、粘土(テラコッタ)、金属の実習がカリキュラムに組み込まれており、その際全ての素材に触れて彫刻をつくる上での基礎的な技法を学びます。実技実習を経た後に、3年生では各々素材を選択して自由に作品を制作し、4年生は4年間の集大成である卒業制作に取り組みます。

東京藝術大学では各素材毎に工房が

存在し、また上野校地と取手校地2つの校舎がありそれぞれの校舎に工房があります。その為学生は作品制作をする上で、幅広い選択肢が用意されています。彫刻科の工房以外でも、木工造形工房、塗装造形工房、AMC(芸術情報センター)、写真センター、図書館等様々な環境が用意されており、学生はその全てを利用できることが藝大の強みです。

—

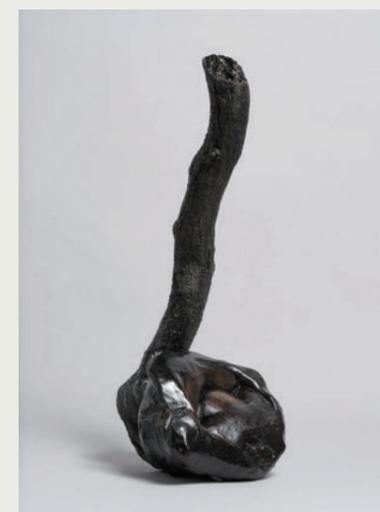
現在の活動

僕は彫刻を通して、出会い感じた様々な事柄を切り取りイメージ化して作品を制作しています。出会ったものにはかたちがあり、かたちには経緯があり、経緯にはストーリーがあります。それぞれの素材にかたちを彫りこむことによりイメージを掘り下げて、かたちを通して自分には何を表現することが出来るのかを常に模索しています。

彫刻を制作する際は終始彫り続け、形態を捉え続ける作業が連続する木彫、身近な素材である粘土、おもちゃ、模型など様々な素材を用いており、作品の完成像を頭に思い浮かべた時にその作品に合う素材をかなり感覚的に選んでいます。

2 野口真美子さん

彫刻専攻 修士2年生 (2023年現在)



《纏ぐ目》素材: 樟、乾漆

入学動機

作品を作っていくにあたり、学部での制作や発表によって得た手がかりから、大学という恵まれた環境の中でさらに模索していく期間が欲しかったので、大学院へ進学することを決めました。

—

現在の活動

大学院に進学してからは、新しく漆という素

材に出会って制作に取り入れるようになったり、個人での研究制作はもちろんですが、大学の講演会で知り合ったご縁で、漆かきのインターンに参加させて戴いたり、ASAPという藝大の海外渡航プログラムに参加させて戴き、カンボジアやタイを訪れたりといった新しい経験がありました。

私の制作の目的は言ってしまうと愛ですが、学部では「存在単位」や「存在範囲」といったキーワードを手がかりに彫刻を制作していました。そしてその頃は、或る一つの存在の、存在のありかといったところに興味を持っていました。これは内と外や個と世界というものに対する興味だったように思います。

大学院に入ってから、制作でも、制作とは一見離れているようにみえる活動の中でも、「繋がり」というものを以前よりもより意識しながら過ごすようになり、物と物や人と場所などの、「存在同士の関わり合い方」や、「或る一つの存在が孕むつながり」といった事に、より関心を持つようになってきています。平たく言えば「中身」への意識が

変わってきました。またその中で、モノを残すことに対する感覚的な折り合いが段々となってきた感じがあります。

このように現在、学部の頃の制作と大きく違ってきているなどという点はいくつかありますが、困難さに対する向き合い方は特に変化しました。学部の頃は克服しよう、強くなることでその困難自体を無かったことにしようという姿勢で制作に臨んでいましたが、最近はその困難さ自体も大事にしたいと思うようになりました。

足を本当に大事にしながら問題に取り組むことはとても難しいですが、まるごと掴んで彫刻を制作していきたいです。



《人一人》素材: ステンレス、LEDライト

卒業後の進路

CAREERS

学部卒業生の多くは、より専門的な研究を続けるために大学院美術研究科へ進学します。中には修士課程を修了後さらに、博士後期課程へ進む者もいます。また、彫刻科での経験を生かし一般企業に就職する学生も増えています。国公立・私立大学、高等学校・中学校の教員も主な進路としてあげられます。

近年の主な就職先

—

株式会社カプコン
株式会社京都科学
株式会社サイバーエージェント
株式会社スクウェア・エニックス
株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント

大日本印刷株式会社
株式会社TBSテレビ
東京国立博物館
日産自動車株式会社
日本科学未来館
株式会社 俄 NIWAKA
任天堂株式会社
株式会社博報堂

株式会社ビーファクトリー
株式会社平成建設
株式会社ポリフォニー・デジタル
本田技研工業株式会社
株式会社ミキモト ほか

教育機関

—

〈国立大学〉
愛知県立芸術大学
秋田公立美術大学
沖縄県立芸術大学
金沢美術工芸大学
静岡大学
都留文化大学

富山大学
広島市立大学
三重大学 ほか

—

〈私立大学〉
女子美術大学
多摩美術大学
東京造形大学
武蔵野美術大学 ほか

<https://www.geidaichoukoku.net/>

編集・発行：東京藝術大学美術学部 彫刻科

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

パンフレットに掲載されている情報は2023年5月のものです。

図版および文章の無断転載を禁じます。

©2023 Department of Sculpture, Tokyo University of the Arts

